

第66期
中間期 株主通信

2016年1月1日 → 2016年6月30日

最先端のカスタマイズ・
ボトル・ファクトリーへ

TAKEMOTOは既製ボトルで
お客様のモノづくりのお手伝いをします。

証券コード: 4248



トップメッセージ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

昨年度は連結売上高が122億円を超え、営業利益も12億5千万円とそれぞれ過去最高の成績を上げることができました。

今年度の日本と世界の情勢は、政治でも経済でも大きな動きが見られており、為替相場の変動は業績にも影響が生じていますが、当社グループとしては公表している事業計画を実現していくために引き続きチャレンジを行っていきます。

前回の株主通信で当社の中期目標として「開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして、世界で最も顧客に必要とされ、チャレンジングで活気のある企業になる」を掲げ、①新製品開発体制の強化、②国内外の生産体制強化並びに安定生産の確保、③営業力の強化の3点が重要課題と説明しました。

新製品開発に関しては、今年度は難易度の高い新製品にも取り組んでいるため、ここまでの開発数はやや少ないという印象ですが、日本と中国の新規金型開発体制は強化を続けています。

次の生産体制については、昨年秋から取り組んでいた結城事業所の増築工事が完成し、5月から印刷棟として稼働しています。この結果、これまで少し離れて所在していた成形工程と印刷工程が同じ敷地内で連携可能となり、全体的な生産性は高まっています。さらに3月には岡山県勝田郡奈義町の工業団地内に37,999㎡の用地を取得し、10月稼働

予定の新工場の建設を進めています。新工場は手狭となっていた大阪ブロー工場を移転拡大する予定であり、稼働によって国内の生産能力は大きく上昇することとなります。

営業力の強化については、自社企画の容器を軸とした開発提案型営業をグループ全体で進めており、実際に新規案件の受注増にもつながっています。さらに昨年秋にはオランダに販売子会社を設立しましたが、今上期にはタイにも販売子会社を設立しました。今後はアメリカ市場での営業活動も強化していきたいと考えています。

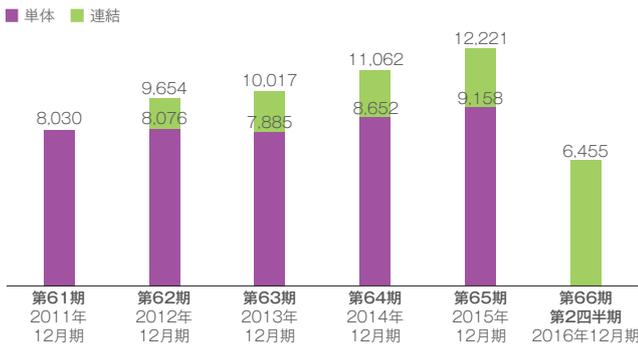
当社グループは、今後とも世界市場へ向けてチャレンジを続けてまいります。

株主の皆様には、変わらぬご支援のほど、よろしくお願い致します。

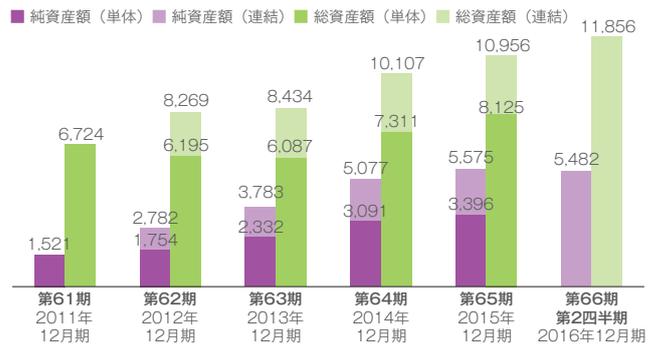
代表取締役社長 竹本 笑子

決算ハイライト

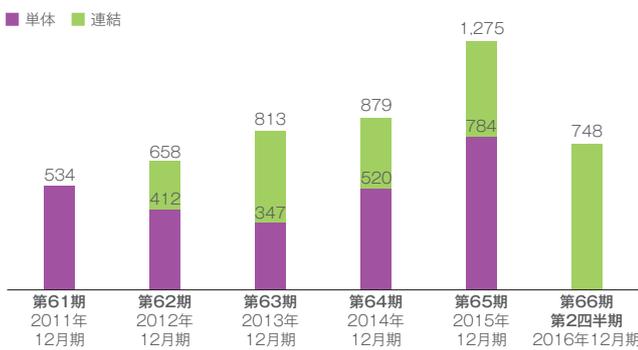
売上高 (単位:百万円)



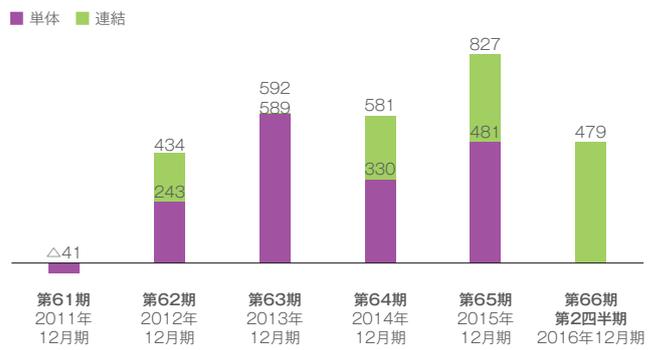
純資産額／総資産額 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失 (単位:百万円)



(注) 連結決算は第62期より作成しています。また、第66期第2四半期の数値については連結のみ記載しています。

NEW PRODUCT 新製品情報

IK-120Ⅱ、IK-150Ⅱ

女性用スキンケア製品の需要が顕著に伸びを見せている中、女性用スキンケア市場向けにデザインし、女性でも持ちやすい細身デザインを意識した商品です。



携帯用粉ケース

プロテインや粉ミルクなどの粉末を小分けにして持ち運ぶ際に便利なケースです。

1段を1回分として何段でも重ねることが可能です。



D-200、D-500

ボトル肩部と底部にダイヤモンドカットが入っている個性的な形状の製品です。華やかな第一印象で製品を引き立たせます。



MCP-75φCAPⅡ

CAPにボリューム感を出して、開閉のしやすさを向上させた製品です。店頭陳列時の見え方も重視して、スタッキング（積み重ねること）が可能で、またCAPにPOPシールが貼りやすく工夫しました。



MCP-10U

リップバームやトライアル品向けで、従来の10ml用広口容器に比べて、最も薄型な製品です。厚みは約17mmのため、メール便で送ることが可能です。





○第6回化粧品開発展

COSME Tech2016 出展

2016年1月20日（水）～22日（金）に東京ビッグサイトにて、過去最大規模となる637社が出展し開催された、第6回化粧品開発展に出展致しました。

当社ブースには、3日間合計で835名にご来場頂き、スタンダードボトルだけでなく、当社が保有している、金型、技術力、を利用すれば、お客様の要望にあった、形状や機能のボトルを短納期且つ、低コストで提供する事ができる、「開発提案型ボトルパッケージングメーカー」をアピールする機会となりました。



○COSMOPACK in Bologna 出展

昨年、オランダに設立致しました当社の子会社であります Takemoto Netherlands B.V.は、2016年3月17日（木）～20日（日）イタリアのボローニャにて開催されたコスモパックへ出展致しました。

コスモパックは、同時開催のコスモプロフと合わせ、世界最大級の化粧品展示会として、世界中の化粧品・メイキャップ・ヘアケア企業が集結し、最新トレンドや、新商品発表、煌びやかな舞台が繰り広げられ、約2,500社が出展、約25万人が来場しました。当社のブースには、4日間で330社の方にご来場頂き、今後の欧州での知名度向上や販路拡大に繋がっていきます。



○新工場建設

本年、3月に岡山県勝田郡奈義町の東山工業団地内に用地を取得。4月に新築工事に着手し、10月操業開始を目指し、現在工場建屋を建設中であります。



【取得用地および新工場の概要】

- (1) 所在地 岡山県勝田郡奈義町柿502番地
(奈義町営東山工業団地2号地)
- (2) 敷地面積 37,999.47㎡
- (3) 新工場名称 竹本容器株式会社 岡山事業所
- (4) 建屋概要 鉄骨造平屋建 延床面積6,636㎡
(第1期工事分)
- (5) 生産品目 プラスチック製ボトル
- (6) 総投資額 14億30百万円 (土地代、第1期工事分)
- (7) 着工 2016年4月
- (8) 操業開始 2016年10月操業予定
- (9) その他 上記のほか、2023年着工の第2期工事により延床面積は12,000㎡超、総投資額は30億円程度となる予定。

○結城事業所 第5期工事竣工

当社の主力工場であります結城事業所において、近隣ながら離れた場所に所在しておりました結城印刷所の移転拡張を目的に、新たに印刷棟（印刷・二次加工工程）の増築工事を昨年10月に着手、本年3月末に工事完了し、5月初旬より稼働開始となりました。

同一敷地内にて、プラスチックボトルの成形と印刷等の加飾工程を行う事により、ランニングコスト削減と、製品移動が容易にでき納期の短縮による競争力強化を図ります。



○Takemoto Packaging (Thailand) Co., Ltd. 設立

2013年にタイのバンコクに竹本容器駐在員事務所を設立し、現地市場調査や宣伝活動を行ってきました。様々な業種のお客様より当社の容器に対して大きな関心と高い評価を頂いた事から、現地法人を立ち上げる為の準備活動をしてきました。そして2016年にタイの投資委員会（BOI）からITC（International Trade Center）の認可を受け竹本容器グループの100%子会社としてバンコクにTakemoto Packaging (Thailand) Co., Ltd.を設立するに至りました。今後は、販売会社としてタイ国内だけではなく東南アジア全体へと市場拡大を目指しております。

バンコクは人口800万人で歴史と近代化が融合した東南アジアで屈指の大都市です。世界一渋滞する都市としても有名ですが、それだけ急速な近代化が進んでおり都市全体に活気があります。また、化粧品・トイレタリー市場も活発で毎年成長を続けており、東南アジアで最大の市場規模です。今後はアセアン経済共同体（AEC）の中心となり、更なる発展が期待されており、タイはいま世界から注目されている国の一つとなっております。



バンコク市内 中心部

○株主優待制度導入について

このたび、株主優待制度を導入することと致しました。

【株主優待制度の概要】

(1) 株主優待制度の対象となる株主様

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様を対象と致します。

(2) 株主優待の内容

保有株式数	優待内容
100株以上	当社が企画・開発・製造したオリジナルボトルに封入した地元浅草のお菓子

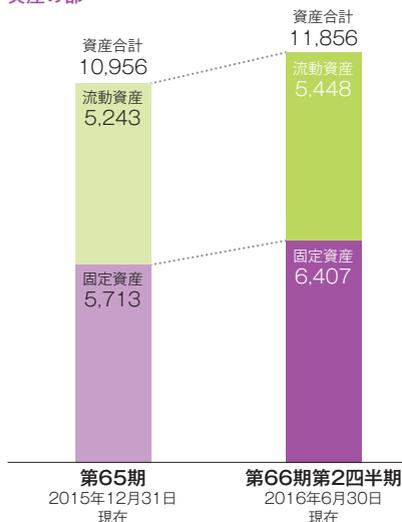
(3) 贈呈の時期

株主名簿確定後にオリジナルボトルの製造を行い、毎年4月に発送予定です。

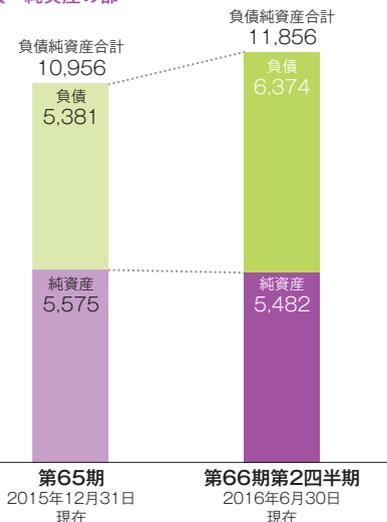
連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

資産の部



負債・純資産の部



POINT

流動資産は、現金及び預金が1億87百万円、商品及び製品が48百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が31百万円減少したことなどから54億48百万円となりました。固定資産は、建物及び構築物が4億12百万円、建設仮勘定が2億28百万円増加、土地が1億4百万円増加したことなどから64億7百万円となりました。流動負債は、支払手形及び買掛金が1億12百万円、短期借入金が1億50百万円増加したことなどから36億77百万円となりました。固定負債は、長期借入金が8億2百万円増加したことなどから26億96百万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金が4億79百万円増加したものの、剰余金の配当が90百万円であったこと及び為替換算調整勘定が4億84百万円減少したことなどにより54億82百万円となりました。

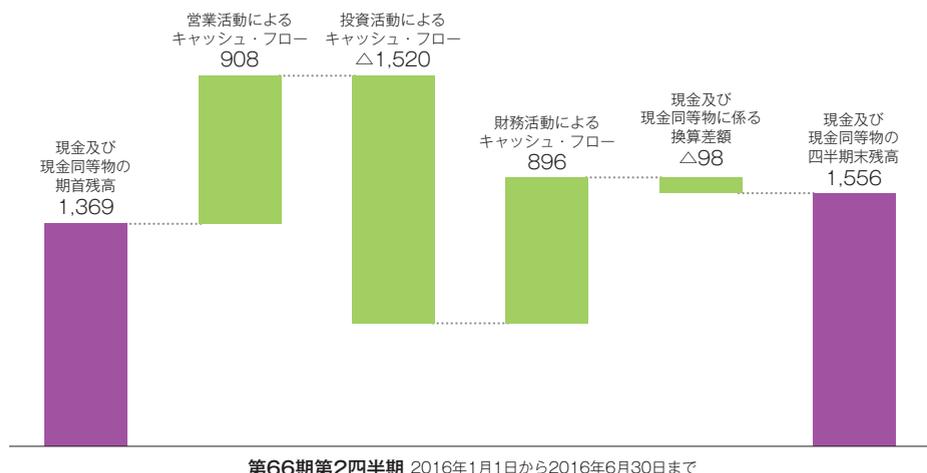
連結損益計算書 (単位:百万円)



POINT

当第2四半期連結累計期間の売上高は64億55百万円（前年同期比8.2%増）となりました。国内市場ではスタンダードボトルを軸とした営業活動並びに提案活動を積極的に展開致しました。海外市場では昨年販売子会社を設立した欧州市場に続き、タイに販売子会社を設立し、本格的な営業活動を行う体制を整えております。また、日本国内の製品供給体制の強化のため結城事業所の増築工事を完成させ、容器成形工程と印刷・二次加工工程の連携強化を行いました。この結果、営業利益は7億40百万円（前年同期比16.6%増）、経常利益は7億48百万円（前年同期比15.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億79百万円（前年同期比10.3%増）となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益7億16百万円、減価償却費3億75百万円などの収入から、法人税等の支払額が2億89百万円あったことなどにより9億8百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出14億42百万円などにより15億20百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金1億50百万円及び長期借入金11億60百万円の収入から長期借入金の返済による支出3億21百万円、配当金の支払90百万円などにより8億96百万円の収入となりました。

会社概要 / 株式の状況 (2016年6月30日現在)

会社概要

商号 竹本容器株式会社
Takemoto Yohki Co., Ltd.
代表 竹本 笑子
設立 1953年5月19日
所在地 〒111-0035
東京都台東区西浅草一丁目5番15号
資本金 3億3,205万9,375円
事業内容 プラスチック製等の包装容器の製造及び販売

役員

代表取締役社長 竹本 笑子
常務取締役 深澤 隆弘
取締役 丸山 正基
竹本 えつこ
戸田 琢哉
監査等委員(社外) 穴田 信次
田中 達也
石川 雅郎
二宮 洋

株式情報

発行可能株式総数 20,498,800株
発行済株式の総数 5,682,200株
株主数 1,930名

大株主(上位10名)

株主名	所有株式数(株)	議決権比率(%)
竹本 笑子	1,685,000	29.66
若竹持株会	437,200	7.70
竹本 雅英	390,000	6.86
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	339,100	5.97
竹本 えつこ	305,000	5.37
深澤 隆弘	265,100	4.67
竹本 力	227,000	4.00
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	194,700	3.43
深澤 英里子	110,000	1.94
山本 健人	103,000	1.81

株式分布状況



事業拠点

日本で販売する製品は、一部を除き、日本国内の自社工場(6工場)及び協力メーカーで生産されています。一方、海外で販売する製品につきましては、主に、上海竹本容器包装有限公司、竹本容器(昆山)有限公司で生産されています。



株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
 期末配当金受領
株主確定日 12月31日
 定時株主総会 毎事業年度の末日翌日から3ヶ月以内
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 (同連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 公告の方法 当会社の公告方法は、電子公告としております。電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下のとおりです。
<http://www.takemotokk.co.jp>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行きます。